

# 地震調査研究推進本部地震調査委員会 (平成30年2月9日)より

## 2. 海溝型地震の長期評価の概要 (算定基準日 平成30年(2018年)1月1日)

(海溝型地震の今後10, 30, 50年以内の地震発生確率)

: 経年により値が変わったもの

領域または地震名	長期評価で予想した地震規模 (マグニチュード)	地震発生確率 (注1)			地震後経過率 (注2)	平均発生間隔 (注1) (上段)
		10年以内	30年以内	50年以内		最新発生時期 (下段: ポアソン過程を適用したものを除く)
南海トラフの地震 (第二版)	南海トラフ	M8~M9クラス	30%程度	70%~80%	90%程度 もしくは それ以上	0.82
			次回までの標準的な値 (注a) 88.2年			72.0年前

① ÷ ②

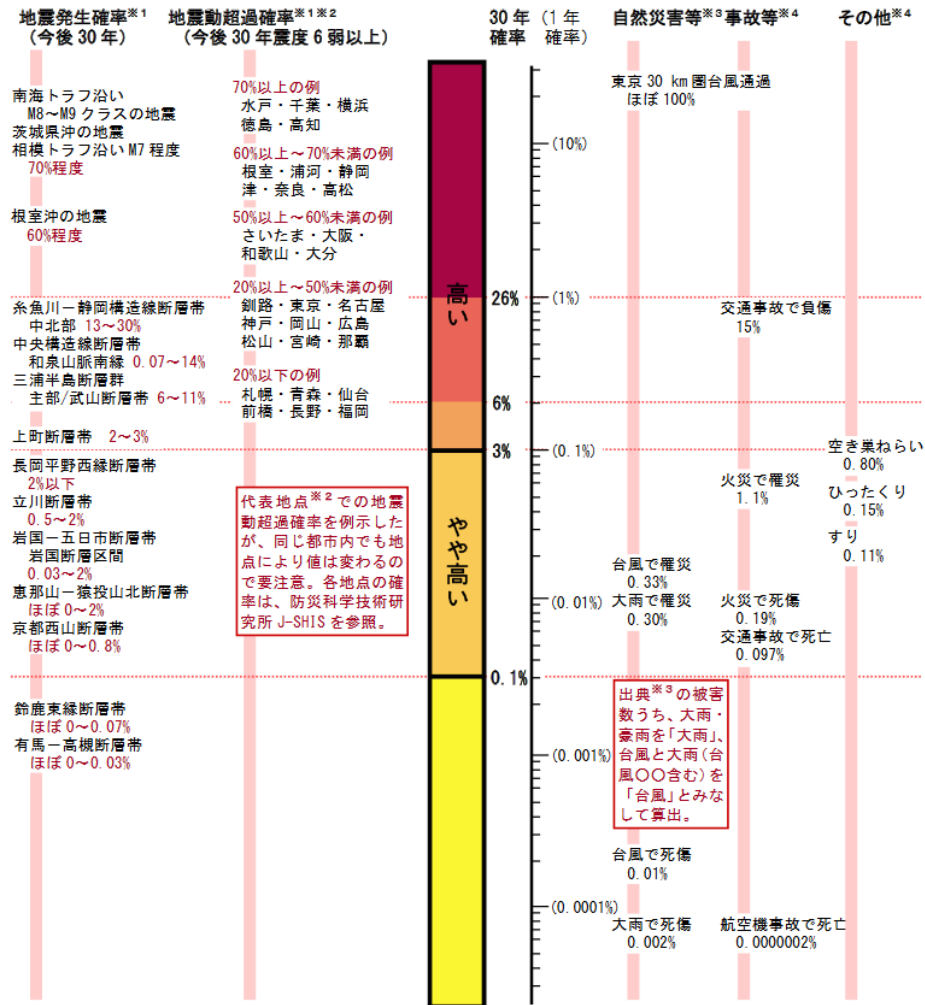
②地震が繰り返される平均的な周期

①最後に地震が発生してからの年数

# 確率の数値を受け止める上での参考情報

地震発生確率・地震動超過確率の例と日本の自然災害・事故等の発生確率の例

次の図は、「今後30年以内に数%」という値が日常生活において無視出来るほど小さな値ではないことを理解するための参考情報です。確率的な地震動予測地図に示されている、「今後の一定期間にある震度以上の揺れに見舞われる確率（超過確率）」は「ハザード」の評価結果であり、ここで例示した事象の「発生確率」や「リスク」と同列に比較出来るものではありませんが、数値の重みを受け止める上での参考情報として見て下さい。



全国地震動予測地図 手引・解説編 2017年版  
(地震調査研究推進本部地震調査委員会)  
(2017)より

※1 例示した地震発生確率・地震動超過確率（平均ケース）は、2017年1月1日時点の評価値。  
 ※2 都道府県庁所在地の市庁舎や東京の都庁・区役所周辺の確率。同じ都市内でも地点により値は変わるので、注意が必要。詳しくは、防災科学技術研究所 J-SHIS (<http://www.j-shis.bosai.go.jp/>) を参照のこと。  
 ※3 日本の自然災害の発生確率は「消防庁の災害年報」に基づく1995~2014年の20年間の値から計算。  
 ※4 日本の航空機事故は「国土交通省航空輸送統計年報」に基づく1996~2015年の20年間の平均値から計算し、その他の事故等は「警察白書」・「消防白書」・「平成26,27年の犯罪情勢」（いずれも2016）から計算。